

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年03月28日

計画の名称	都市活力の向上を支援する“富士”のみちづくり													
計画の期間	平成31年度 ～ 令和05年度（5年間）										重点配分対象の該当			
交付対象	富士市													
計画の目標	広域交通拠点である新幹線駅及び東名・新東名ICと地域拠点間のアクセス性を向上させることにより、人・物の広域交流を促進させ、まちの魅力向上や産業の活性化など都市活力の向上を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		2,338	A	2,338	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H31当初)		(R5末)
1	新幹線駅及び東名・新東名ICと地域拠点間の移動円滑化率を61%から80%に向上させる。 新幹線駅及び東名・新東名ICと地域拠点間の移動円滑化率 移動円滑化率(%)=(移動円滑化された道路延長/移動円滑化が必要な道路延長)×100	61%	%	80%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	富士市	直接	富士市	S街路	新設	（都）左富士臨港線（青 葉台工区）	道路新設 L=425m	富士市	■					33		－	
	A01-002	街路	一般	富士市	直接	富士市	S街路	新設	（都）左富士臨港線（青 葉台東工区）	道路新設 L=487m	富士市	■	■	■	■	■	849		－	
	A01-003	道路	一般	富士市	直接	富士市	市町村 道	新設	（１）一色小沢３号線	バイパス L=500m	富士市	■	■	■	■	■	308		－	
	A01-004	道路	一般	富士市	直接	富士市	市町村 道	改築	（他）木島松野線	現道拡幅 L=120m	富士市					■	■	35		－
A01-005	道路	一般	富士市	直接	富士市	市町村 道	改築	（２）居村上下川原線	現道拡幅 L=404m	富士市				■			169		－	
A01-006	道路	一般	富士市	直接	富士市	市町村 道	新設	（１）本市場大淵線（大 淵上工区）	道路新設 L=230m	富士市				■	■	■	577		－	

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-007	道路	一般	富士市	直接	富士市	市町村 道	新設	（他）柳島広町 9 号線	道路新設 L=400m	富士市					■	■	367		—
											小計							2,338		
											合計							2,338		

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
富士市建設事業関連部署で構成する富士市道路事業評価委員会により事後評価を実施。 。	令和7年3月
	公表の方法 富士市ウェブサイトで掲載
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	各路線の部分供用に伴い、新富士駅と地域拠点等へのアクセス性が向上した。（左富士臨港線（青葉台工区）、一色小沢3号線）
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	
左富士臨港線（青葉台東工区）、一色小沢3号線、居村上下川原線、本市場大渕線（大渕上工区）、柳島広町9号線の5路線については、令和6年度以降の計画においても継続して事業を進めており、早期供用できるよう進捗を図る。	

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	80%	事業費が安定して確保できたことにより、（都）左富士臨港線（青葉台工区）、（１）一色小沢３号線が計画どおり部分供用することができた。
	最 終 実績値	80%	